

平成 30 年住生活総合調査の結果について

1 調査の目的

居住環境を含めた住生活全般に関する実態や居住者の意向・満足度等を総合的に調査することにより、住宅政策の基礎的資料を得ることを目的とする（国土交通省実施）。

2 調査時期

平成 30 年 12 月 1 日基準日（5 年周期）

3 調査対象

平成 30 年住宅・土地統計調査（平成 30 年 10 月 1 日基準日）の調査対象世帯から無作為抽出（全国で約 11 万世帯）

4 主な調査項目

- ・現在の住宅及び居住環境の評価について
- ・現在の住まい、以前のお住まいについて
- ・今後の住まい方について
- ・子どもとの住まい方について

5 神奈川県における調査規模

調査実施市町村：28 市町(中井町、松田町、山北町、箱根町、清川村以外)

調査区数：519 調査区

対象世帯数：6,228 世帯（1 調査区あたり 12 世帯）

集計世帯数：2,774 世帯

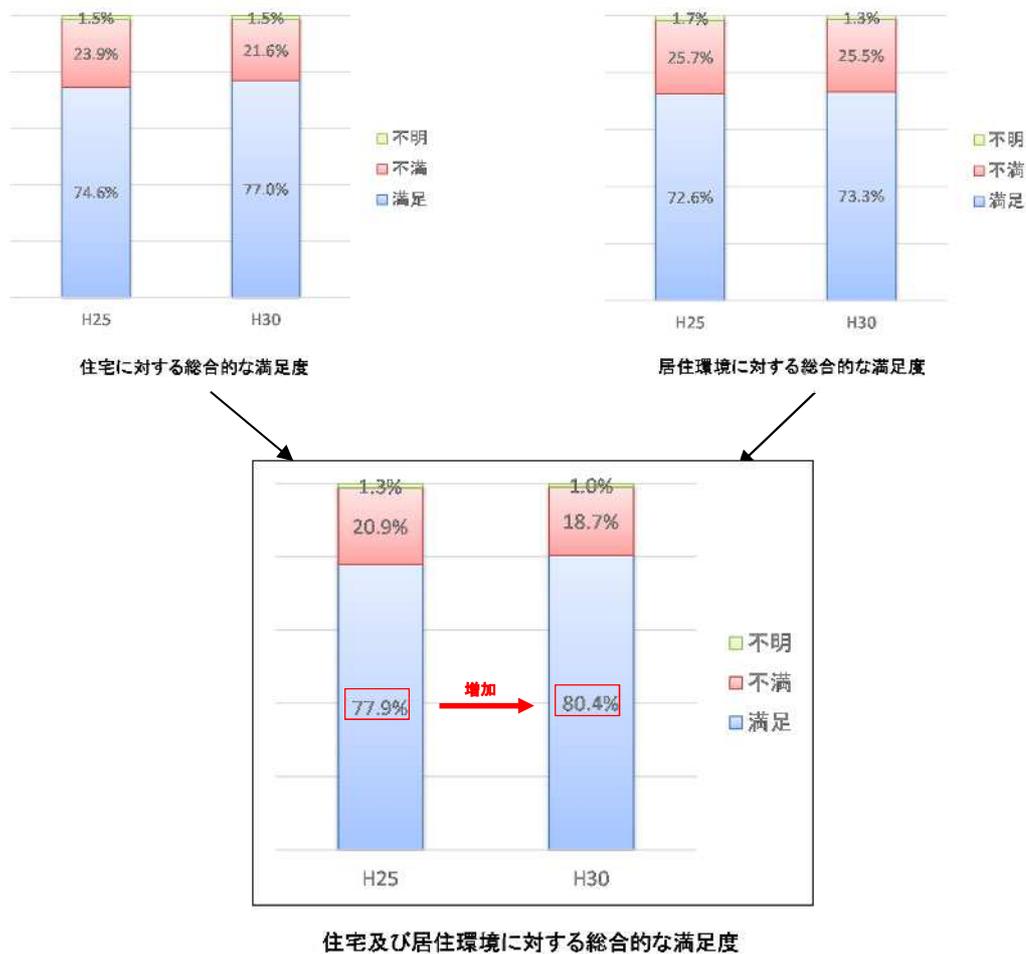
6 地域区分

地域区分	市町村名
横 浜	横浜市
川 崎	川崎市
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町
県 央	相模原市、厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町 ※清川村除く
湘 南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町
県 西	小田原市、南足柄市、大井町、開成町、真鶴町、湯河原町 ※中井町、松田町、山北町、箱根町除く

7 調査の主な結果

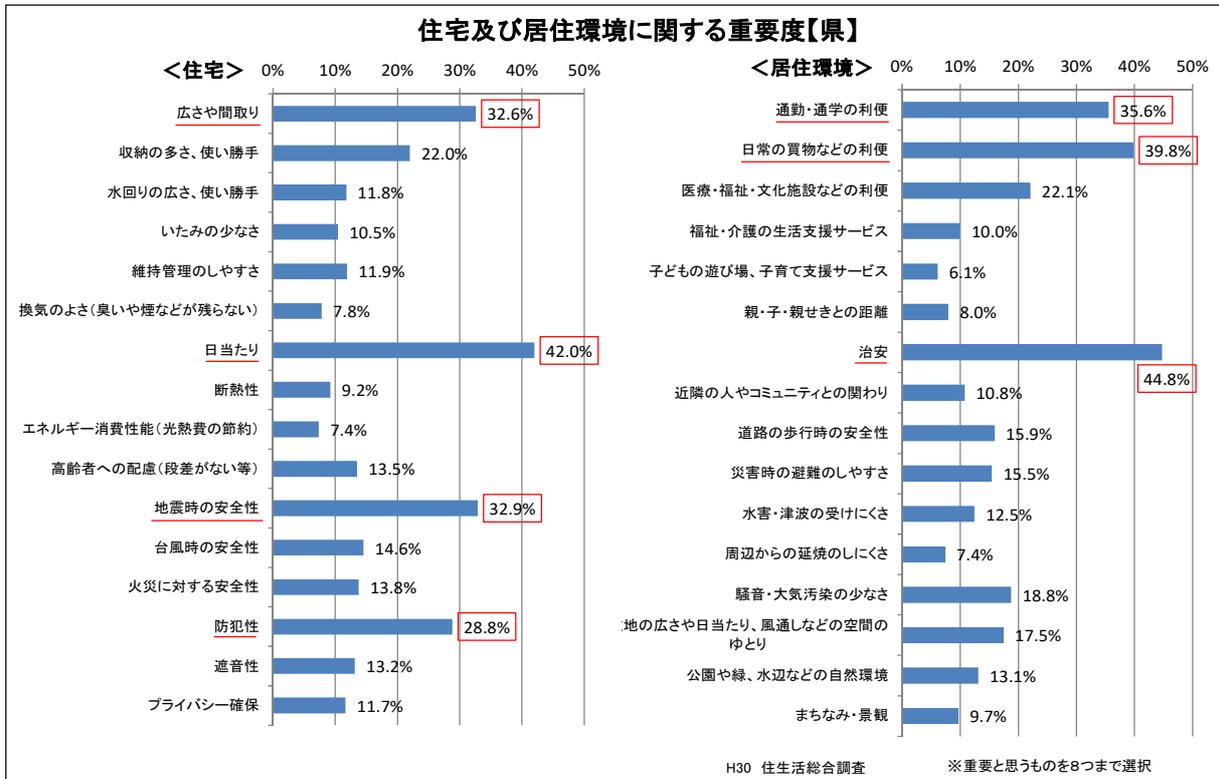
1) 住宅及び居住環境に対する評価

- 現在住んでいる住宅及び居住環境に対する総合的な満足度は、「満足」が約8割となっており、前回調査（H25）よりやや増加している。



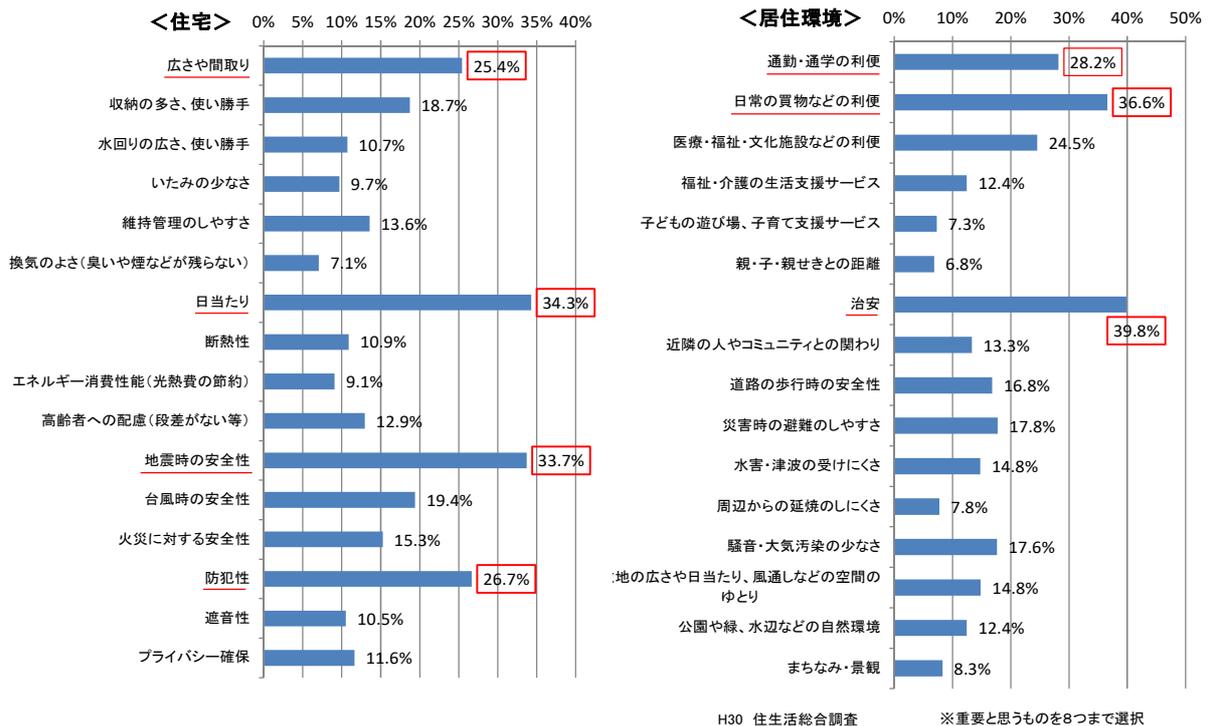
2) 住宅及び居住環境に関する重要度

- 住宅については、「広さや間取り」、「日当たり」、「地震時の安全性」、「防犯性」を選択する世帯の割合が高い。（全国も同様）
- 居住環境については、「通勤・通学の利便」、「日常の買物などの利便」、「治安」を選択する世帯の割合が高い。（全国も同様）



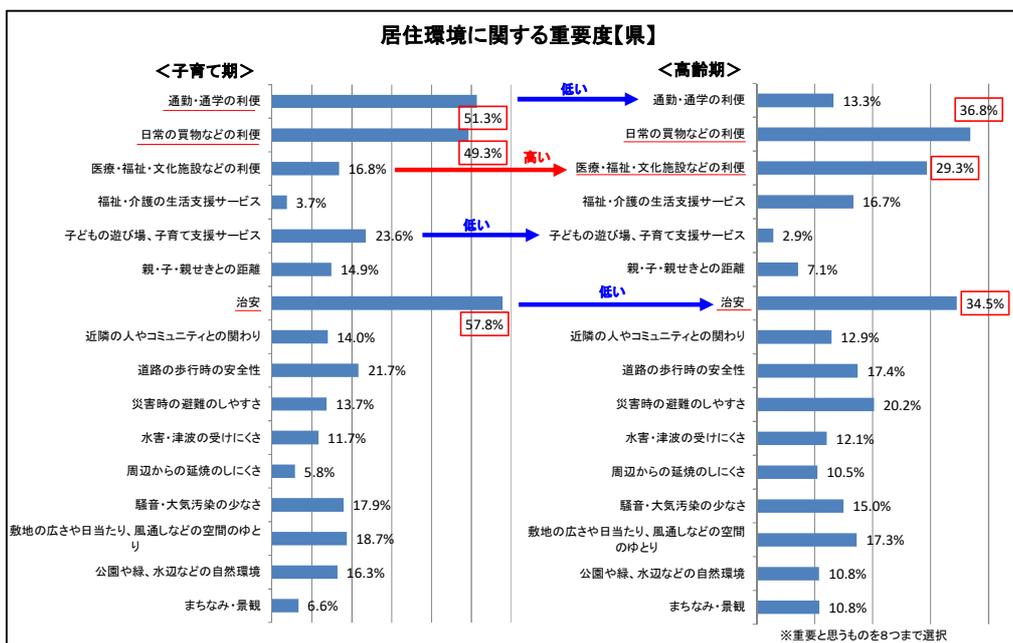
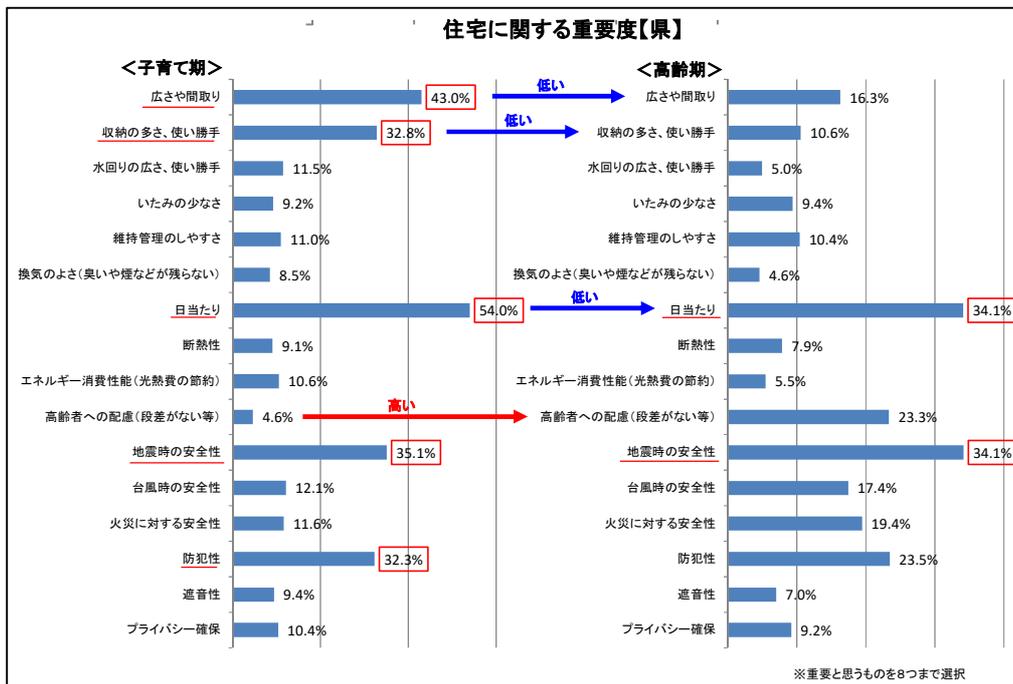
□ 上位の項目

(参考) 住宅及び居住環境に関する重要度【全国】

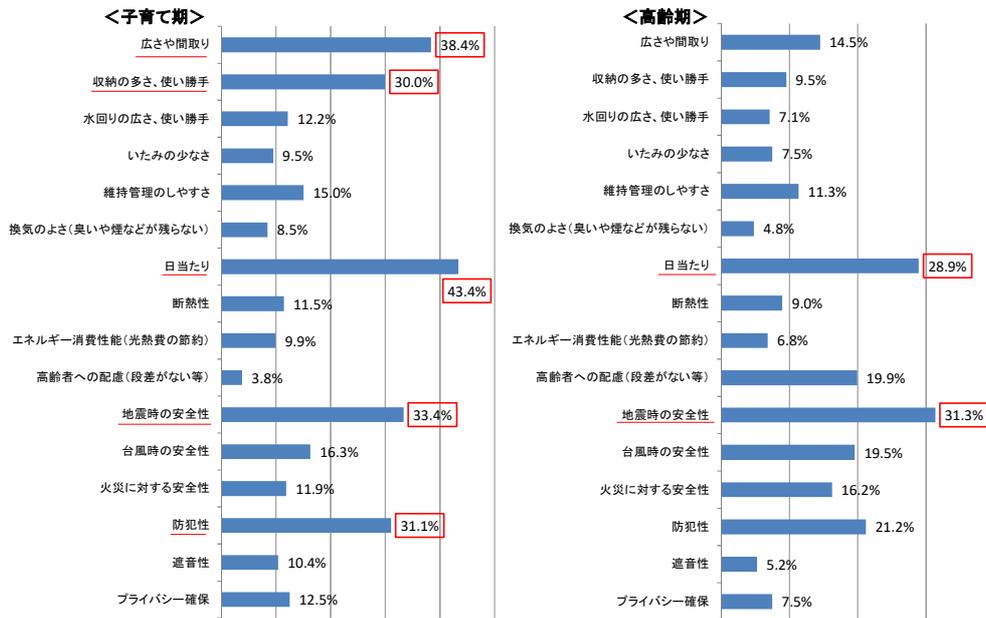


3) 子育て期、高齢期において重要な要素

- 住宅については、子育て期では、「広さや間取り」、「収納の多さ、使い勝手」、「日当たり」、「地震時の安全性」、「防犯性」を選択する世帯の割合が高く、高齢期では、「日当たり」、「地震時の安全性」を選択する世帯の割合が高い（全国も同様）。両者を比較すると、高齢期では、「高齢者への配慮（段差がない等）」について関心が高く、「広さや間取り」、「収納の多さ、使い勝手」、「日当たり」への関心が低い傾向にある。
- 居住環境については、子育て期では、「通勤・通学の利便」、「日常の買物などの利便」、「治安」を選択する世帯の割合が高く、高齢期では、「日常の買物などの利便」、「医療・福祉・文化施設などの利便」、「治安」を選択する世帯の割合が高い（全国も同様）。両者を比較すると、高齢期では、「福祉・介護の生活支援サービス」への関心が高く、「通勤・通学の利便」、「子どもの遊び場、子育て支援サービス」、「治安」への関心が低い傾向にある。

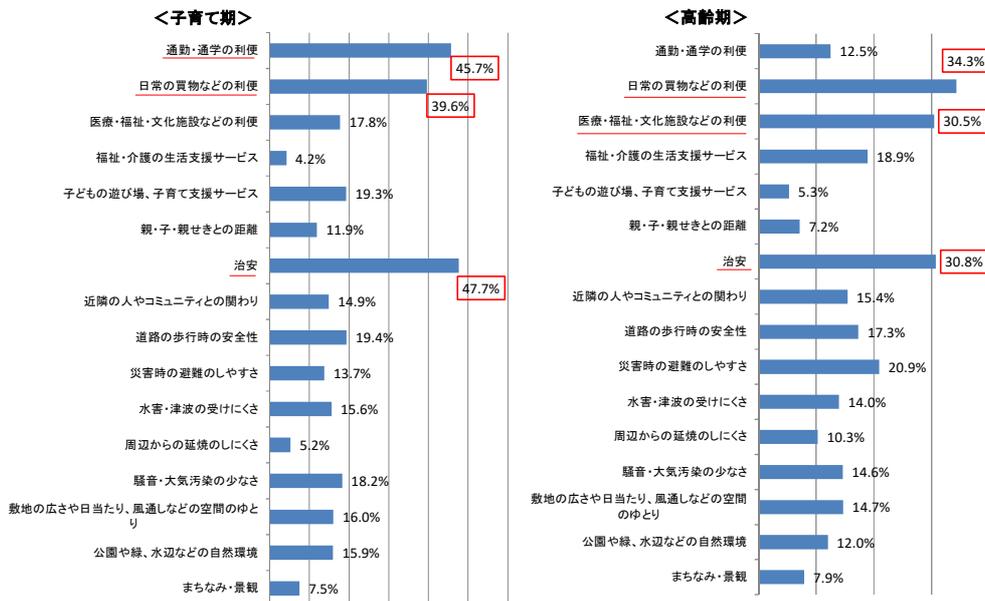


(参考) 住宅に関する重要度【全国】



※重要と思うものを8つまで選択

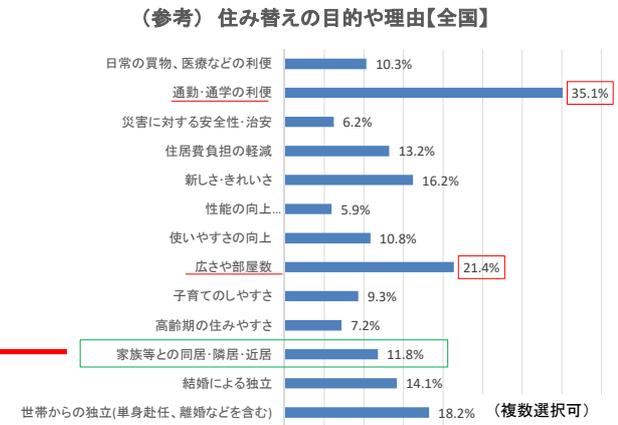
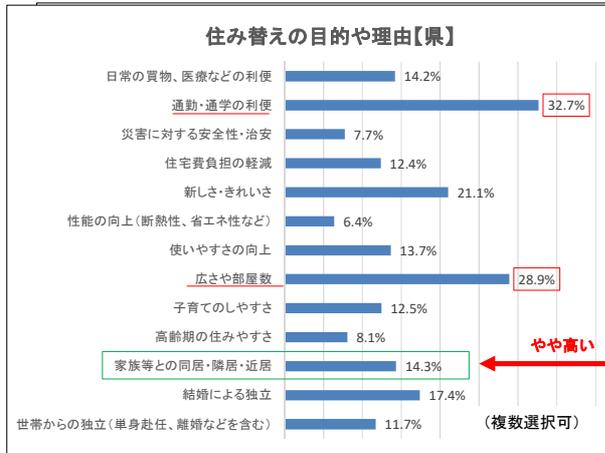
(参考) 居住環境に関する重要度【全国】



※重要と思うものを8つまで選択

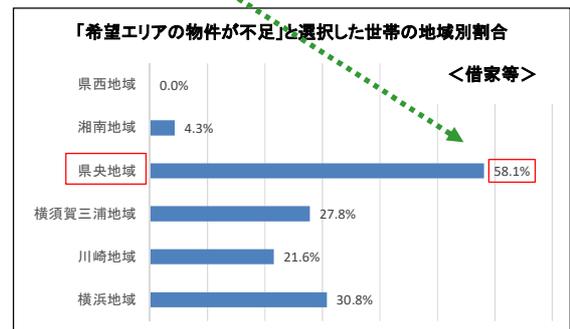
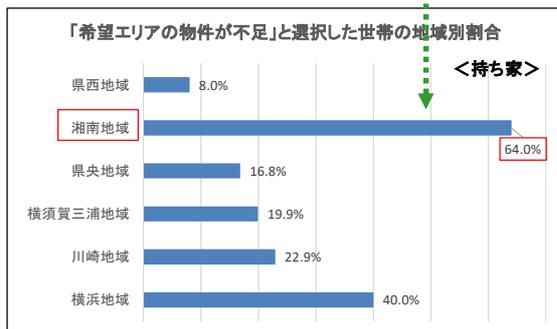
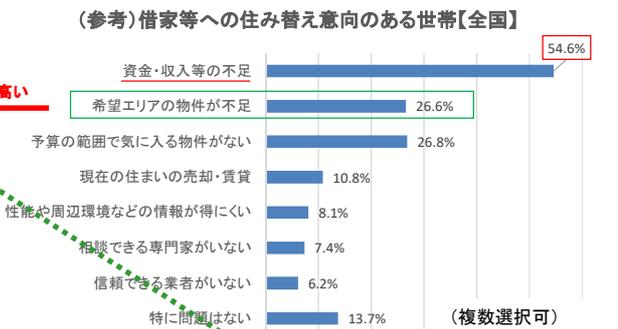
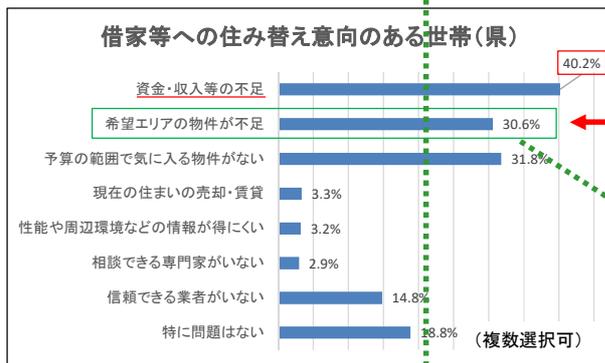
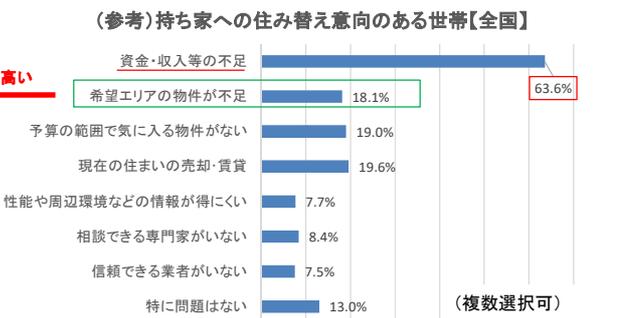
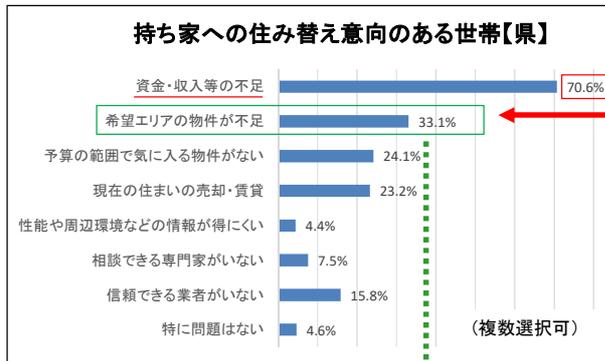
4) 住み替えの目的や理由

- 住み替えの目的や理由としては、「通勤・通学の利便」、「広さや部屋数」を選択する世帯の割合が高い。（全国も同様）
- また、全国と比較すると、「家族等との同居・隣居・近居」を選択する世帯の割合がやや高い。



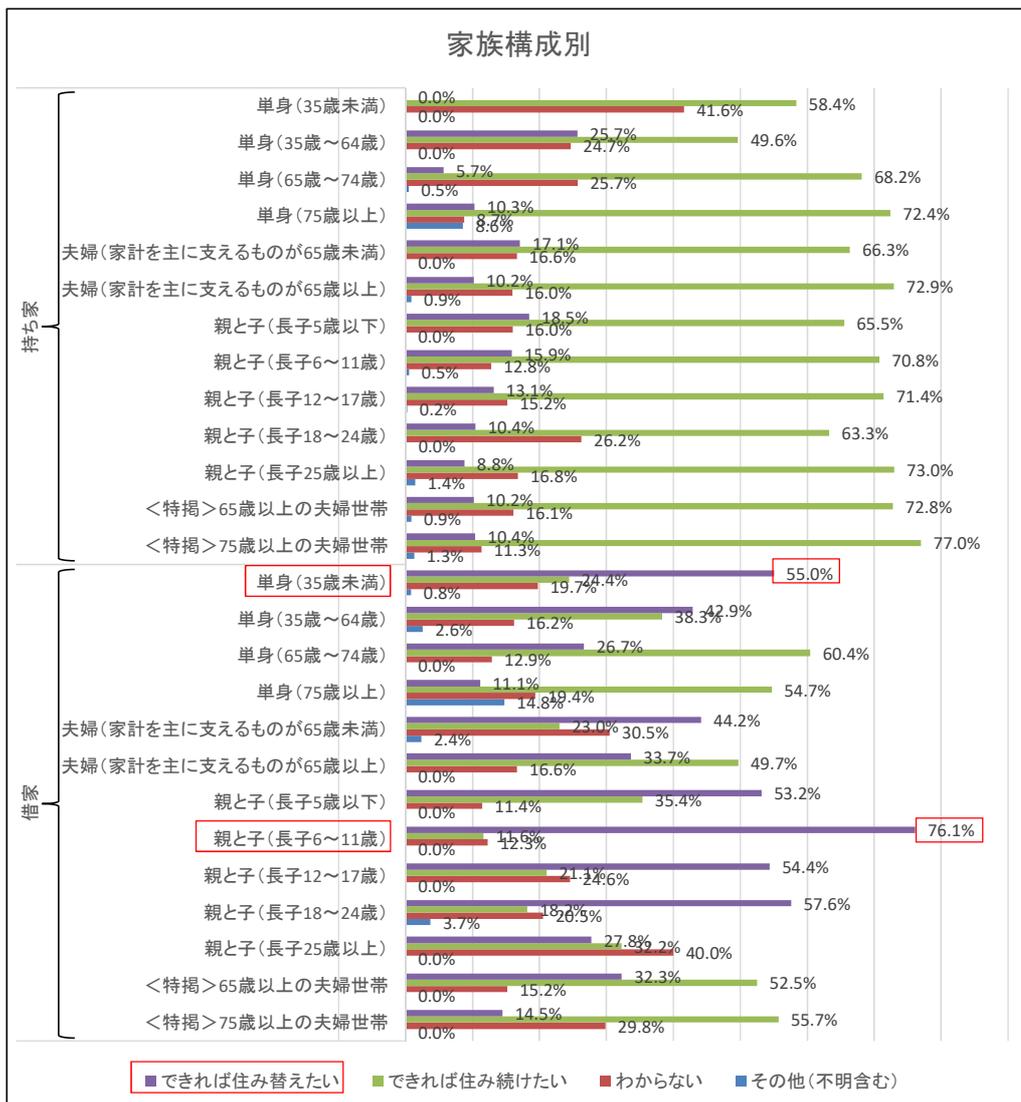
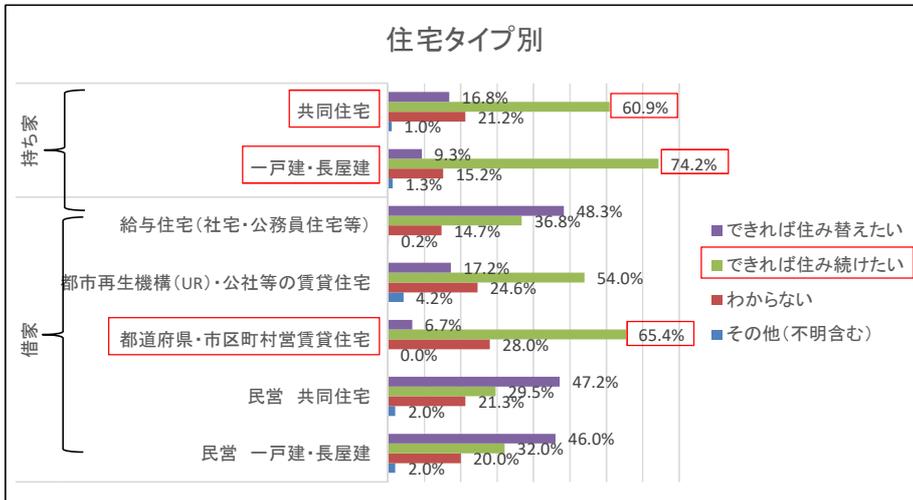
5) 住み替えの実現上の課題

- 住み替えの課題としては、「資金・収入等の不足」を選択する世帯の割合が高い。
- また、「希望エリアの物件が不足」を選択する世帯の割合は、全国より高く、持ち家への住み替えでは湘南地域、借家等への住み替えでは県央地域が高い。



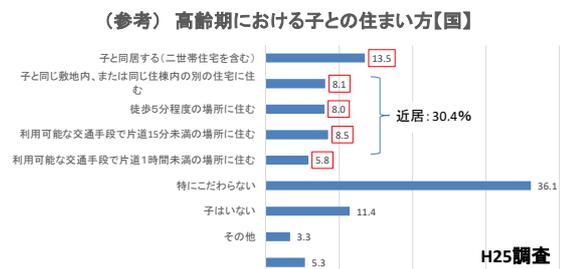
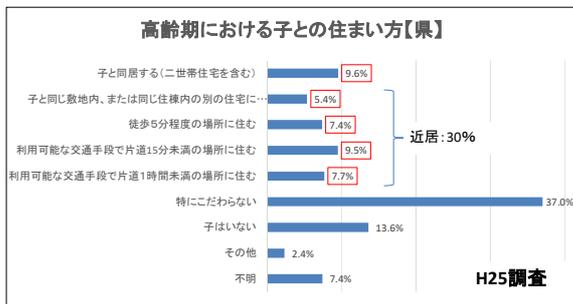
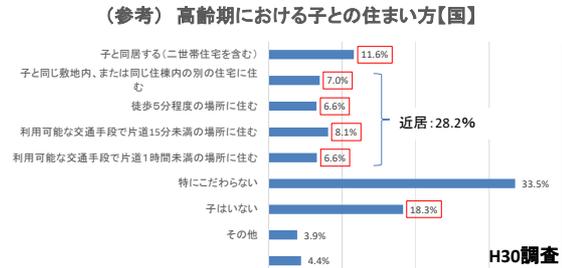
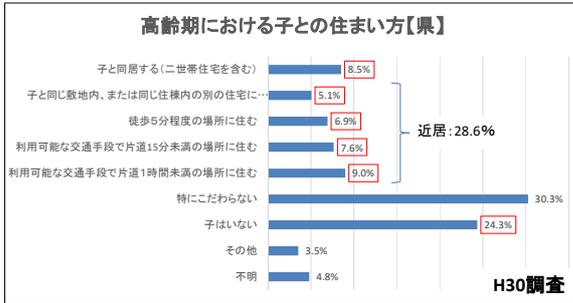
6) 将来の住み替え等の意向

- 持ち家世帯は、共同住宅、一戸建・長屋建ともに「できれば住み続けたい」を選択する世帯の割合が高い。
- 借家世帯のうち、都道府県・市区町村営賃貸住宅にお住まいの方は「できれば住み続けたい」を選択する世帯の割合が高い。
- 家族構成別でみると、借家世帯のうち、単身（35歳未満）及び親子（長子6～11歳）の世帯は「できれば住み替えたい」を選択する世帯の割合が高い。



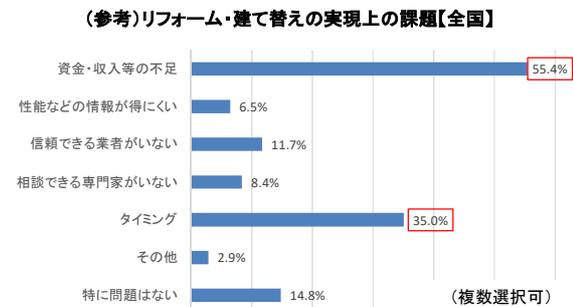
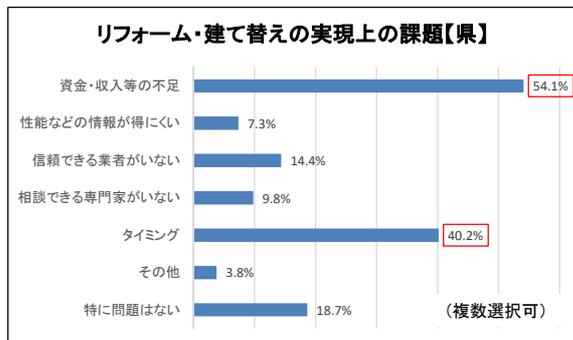
7) 高齢期における子との住まい方（望ましいと思うもの）

- 子と同居することを選択する世帯は約1割、近居することを選択する世帯は約3割となっている。（近居：「子と同じ敷地内、または同じ住棟内の別の住宅に住む」、「徒歩5分程度の場所に住む」、「利用可能な交通手段で片道15分未満の場所に住む」、「利用可能な交通手段で片道1時間未満の場所に住む」を選択する世帯）
- 前回調査と比較すると、同居や近居を選択する世帯はやや減少している。



8) リフォーム・建て替えの実現上の課題

- リフォームや建て替えの課題としては、「資金・収入等の不足」、「タイミング」を選択する世帯が多い。



9) 将来の改善（リフォーム・建て替え）の意向内訳

- 地域別でみると、「リフォームを考えている」を選択する世帯の割合は横浜地域が多く、「リフォーム・建て替えいずれも考えていない」を選択する世帯の割合は横須賀三浦地域が多い。
- 家族構成別でみると、「リフォームを考えている」を選択する世帯の割合は、単身（35歳～64歳）が多く、「リフォーム・建て替えいずれも考えていない」を選択する世帯の割合は、75歳以上の夫婦世帯が多い。

